

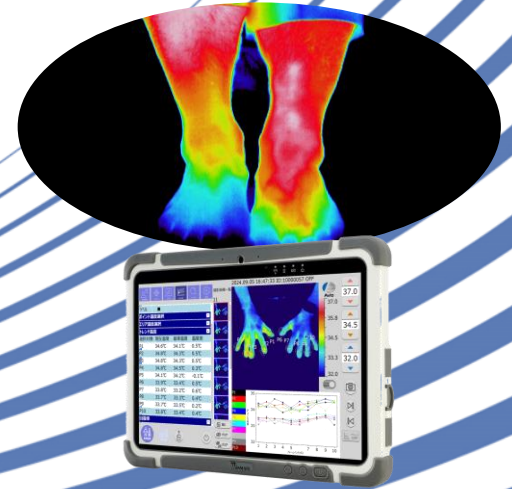
日本アビオニクス株式会社



2025年3月期決算説明会



出典：海上自衛隊ホームページ



2025年7月8日

AGENDA

会社概要 P.3～

- はじめに
- 会社成長のシナリオ
- 会社概要
- 当社のDNA
- 業績推移
- 事業概要

中期経営計画（進捗） P.19～

- 中期経営計画 STEP3
- 経営目標
- 事業戦略
 - ①情報システム事業
 - ②接合機器事業
 - ③センシングソリューション事業

決算概要 P.12～

- 決算ハイライト
- セグメント別状況

通期業績予想 及び資本政策 P.16～

- 通期業績予想
- 資本政策

APPENDIX P.35～

- 損益計算書
- 貸借対照表
- キャッシュ・フロー計算書、指標
- 注意書き



会社概要



はじめに



日本アビオニクス の 経営理念

私たちの強みを磨き、さらに高めて
お客様のために新しい価値を創造し、
安全・安心で豊かな社会を実現します

経営方針

顧客価値経営を推進し、「筋肉質で強くて良い会社」へ!!
継続して営業利益率15%以上を出す会社



代表取締役執行役員社長

竹内 正人

「筋肉質で」
会社、組織が健全な体質

- ・無駄がなく効率的
- ・多少のことでは揺るがない（持続性）
- ・ガバナンスが強固

「強くて」
会社、組織に競争力がある

- ・顧客価値の実現
- ・社会の変化や困難に対処
- ・QCDが優れている

「良い」
会社、組織のエンゲージメントが高い

- ・社員が主体的に取り組んでいる
- ・社会に貢献している
- ・企業価値が高い

2019年社長就任時の当社の状況： 営業利益は赤字、株価低迷

会社成長のシナリオを3つのSTEPの中期経営計画で策定

事業基盤の確立

- ・社員の意識改革からスタート（行動指針5 + 1Cの策定/浸透）
独立した会社としての責任/利益意識を向上
- ・課題を抽出し、QFDで優先順位を決めプロジェクトで解決
様々なプロセスを見直し、改革を遂行

黒字化
3期連続増益

経営基盤強化

- ・顧客価値向上のために競争力を強化
「企画力」、「技術力」、「ものづくり力」の3つの力を向上

5期連続増益

成長戦略推進

- ・更なる成長を目指し施策を拡大
 - ① 人財開発、組織活性化、環境改善を推進してアウトプット最大化
 - ② 3つの力の融合による更なる顧客価値の向上とQCDの改善
 - ③ 品質、ガバナンスの強化と成長戦略遂行による経営基盤の確立

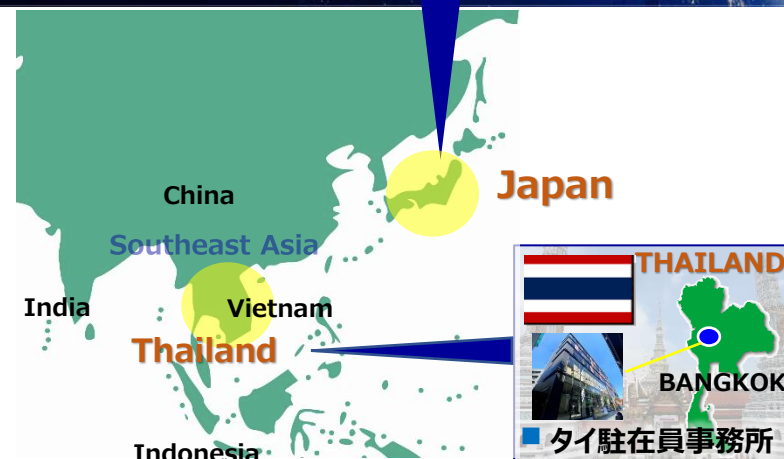
◆ 継続して成長する会社 = 営業利益率15%以上の達成と継続

会社概要



商 号	日本アビオニクス株式会社 Nippon Avionics Co., Ltd.
本 社	横浜市都筑区池辺町4475番地
設 立	1960（昭和35年）年4月
代 表 者	代表取締役 執行役員社長 竹内 正人
売 上 高	連結：20,122百万円 （2025年3月期）
従業員数	単独：612名／連結：701名 （2025年3月31日現在）
資 本 金	5,895百万円（2025年3月期）
株式上場	東京証券取引所 スタンダード市場 【証券コード 6946】
事業内容	情報システム、接合機器、赤外線機器の 製造販売
関係会社	福島アビオニクス株式会社（連結子会社）

本社/拠点所在地



高度な信頼性が求められる防衛技術を根幹に 様々な分野に展開

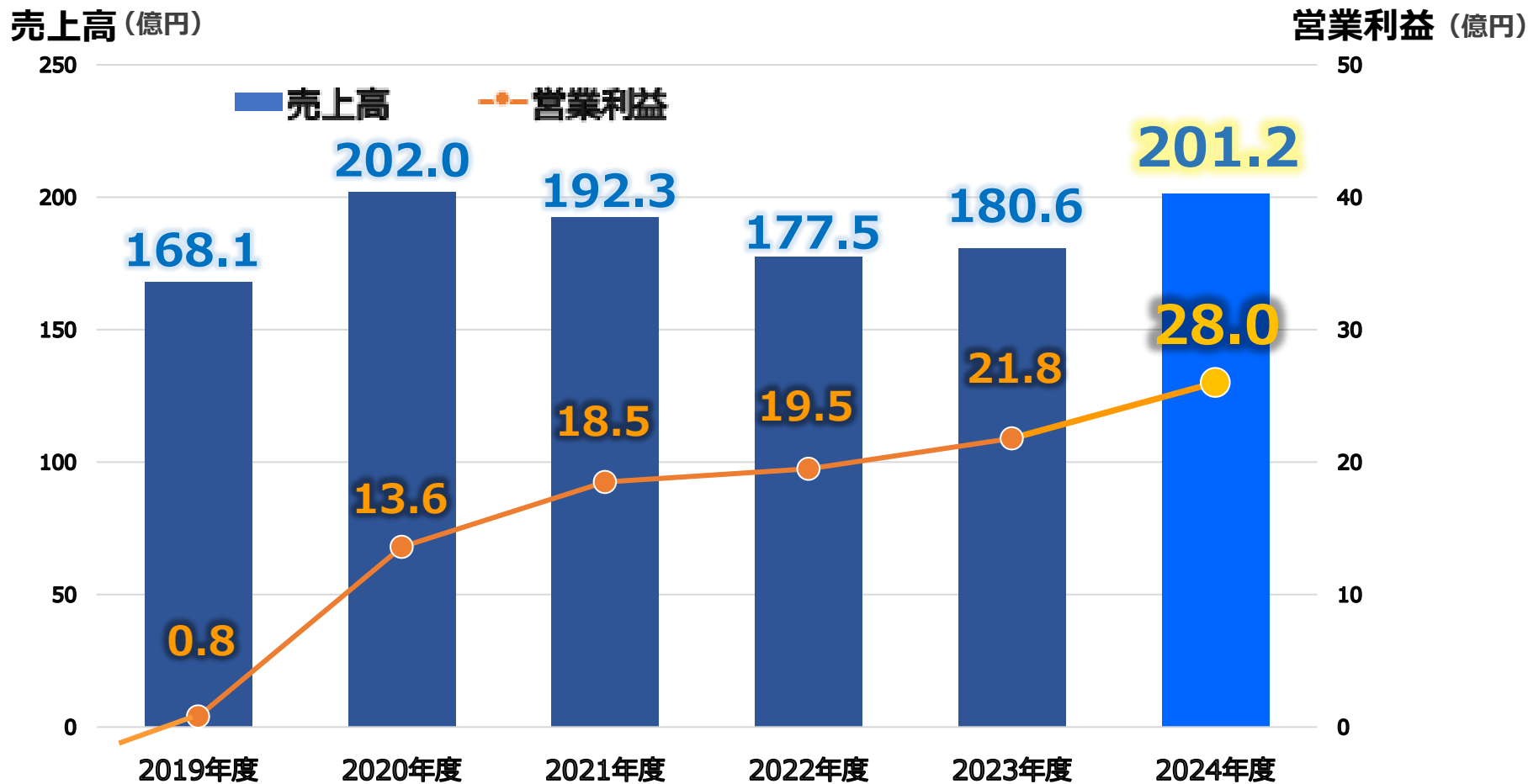


*BADGE : Base Air Defense Ground Environment
自動警戒管制組織

<沿革>

- 1960 米国ヒューズ・エアクラフト・カンパニーと
日本電気株式会社との合併会社として設立
防衛関連（現情報システム）事業開始
- 63 接合機器事業開始
- 68 航空自衛隊向け自動警戒管制組織（バッジシステム）
納入完了
- 75 赤外線機器（現センシングソリューション）事業開始
- 88 東京証券取引所市場第二部に株式上場
（2022年4月 スタンダード市場に移行）
- 89 福島アビオニクス株式会社設立
- 2000 ロッキードマーチン社とライセンス契約締結
- 06 NEC三栄株式会社を完全子会社化
- 11 東日本大震災発生、当社製赤外線サーモグラフィ
による福島第一原発の温度計測
- 12 日本ヒューチャア株式会社を完全子会社化
（現接合機器：超音波ウエルダ製造）
- 20 親会社変更、NECグループから独立
- 21 第2種優先株式償還（一部）
- 22 タイ駐在員事務所開所
- 23 第1種及び第2種優先株式消却（全株）
- 24 TOBによる自己株式取得
株式5分割

営業利益：6期連続増益





情報システム事業

日本の安全を守る事業を主軸に展開

安全・安心な社会の実現

陸上・海上・航空自衛隊へ防衛装備品を提供
宇宙、一般産業向けに信頼性の高い製品を提供

防衛装備品（防衛用システム、電子機器・装置）

対空戦闘指揮装置

陸



指揮・射撃統制装置
の管制装置

情報表示システム

海



指揮管制システムの
情報表示装置

自動警戒管制システム

空



指揮管制を行う自動
警戒管制システム

現在、運用中の海上自衛隊艦船は、
護衛艦50艦、潜水艦22艦及び
掃海艦艇21艦艇程度あり、そのほとんど
に当社製情報表示システムが搭載
（2025年3月現在）

出典：防衛省HP

コア技術

信号処理、画像処理、表示音響、指揮管制

ものづくり力

高信頼性、堅牢性、品質重視

組織能力

開発・製造から保守まで一貫体制で対応

ノウハウ

陸・海・空の装備品展開、豊富な運用実績

強み

宇宙用部品



JAXA認定宇宙用
ハイブリッドIC

製造受託



信頼性の高い
ものづくり

接合機器事業

機器の高機能化に対応した
“つける”ソリューションを主軸に展開



安全・安心で豊かな社会の実現

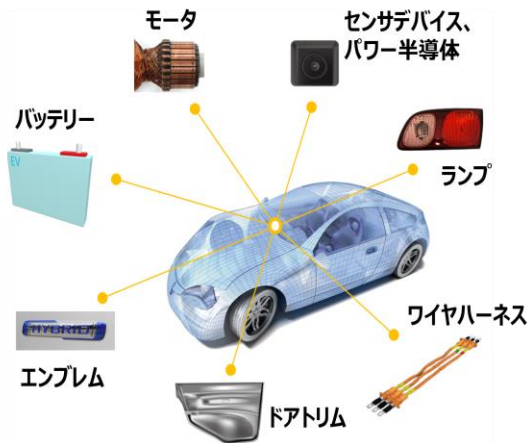
スマートフォンや自動車などの日常品の「ものづくり」において、
最適な接合ソリューションを提供

強み

情報機器関連



自動車関連



4つの接合工法を保有

- ・接合することに加え、強度、品質、生産タクト、コスト等の顧客要求に、最適ソリューションを提案
- ・接合工法を融合し、新たな接合方法を確立

ワンストップで課題解決

- ・接合の経験や知見を活かし、材料やめっき、治具、接合解析、装置化等を提案

接合4工法

抵抗溶接



電気

パルスヒート



熱

超音波



振動

レーザ



光

センシングソリューション事業

災害の未然防止に役立つ
赤外線ソリューションを主軸に展開



安全・安心で豊かな社会の実現

老朽化したインフラ設備の保守、発電設備/プラントの災害未然防止、
国際空港における検疫などに、最適なセンシングソリューションを提供

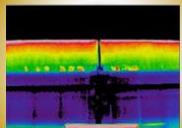
強み

- ・画像処理技術（グラフィック）
- ・自社で開発・製造・販売する国産メーカー
- ・波長変更（ガラス越し等の特殊計測）
- ・医療器認定サーモグラフィを開発・販売（国内唯一。2025年6月当社調べ）

サーモグラフィの特長

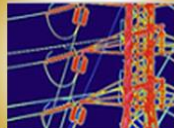
1. 非接触で温度を可視化
2. 広範囲の温度を一括で可視化
3. リアルタイムで温度を可視化
4. 暗闇に強い（暗視）

インフラ



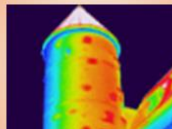
橋梁点検

電力



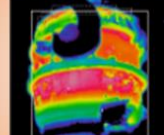
変電設備監視

石油化学



サイロ監視

鉄鋼



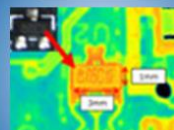
取鍋監視

製造業



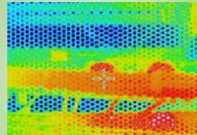
鋳造金型監視

R&D



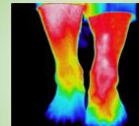
電子部品熱解析

通信



データサーバ監視

ヘルスケア



症状・治療効果
の確認



決算概要

営業利益：上場来最高値

(億円)

	2023年度	2024年度	増減額
売上高	180.6	201.2	+20.6
営業利益	21.8	28.0	+6.2
営業利益率 (%)	12.1	13.9	+1.8
経常利益	21.5	27.1	+5.6
経常利益率 (%)	11.9	13.5	+1.6
当期純利益	21.5	19.6	▲1.9
当期純利益率 (%)	11.9	9.8	▲2.1
受注高	219.0	274.4	+55.4
受注残高	144.4	217.5	+73.1

主なポイント

■ 営業利益 上場来最高値
6期連続増益

■ 受注大幅増加

■ 受注残大幅増加



情報システム事業

売上高増加、営業利益増加



事業環境

- 政府の新たな「防衛力整備計画」に基づき、防衛装備品の需要が増加。防衛予算は、概算要求時の装備品が認められ、補正予算含め前期比同等の高水準で履行。

売上高 (9.3%増)

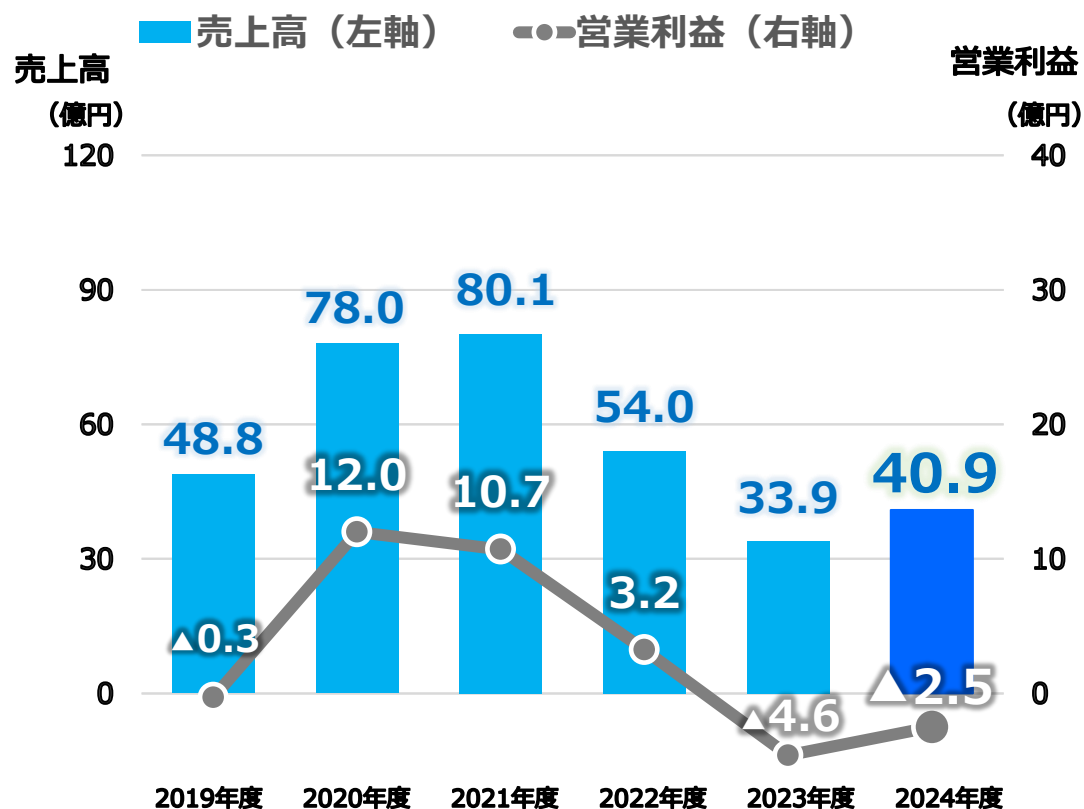
- 日本の防衛力の強化を背景に、防衛力整備計画における複数の開発に携わったことで増加。また、宇宙用途や産業向けの製品についても堅調に推移。

営業利益 (4.1億円増)

- 売上高の増加と、QCD改善による収益性の向上で増加

電子機器事業

売上高増加、営業利益改善



事業環境

- 情報機器の生産設備需要と、インフラやプラント設備の保守関連需要は、上向きではあったが、車載電装品の生産設備需要はEV生産量の伸びの鈍化などにより不安定

売上高（20.7%増）

- 製造業における生産や設備投資の緩やかな回復と、ニーズに応えた製品の提供により、前年比で増加

営業利益（2.1億円改善）

- 売上高の増加とQCD改善により前年比で増加



通期業績予想 及び資本政策



売上高225億円、営業利益32億円

(億円)

	2024年度 実績	2025年度 予想	増減額
売上高	201.2	225.0	+23.8
営業利益	28.0	32.0	+4.0
経常利益	27.1	31.0	+3.9
当期純利益	19.6	22.0	+2.4
研究開発費	5.6	7.0	+1.4
設備投資	5.6	7.0	+1.4
減価償却費	4.8	5.0	+0.2

主なポイント

- 情報システム事業は防衛力強化の市況に追従
電子機器事業は市況の変化を捉え、
メガトレンド市場に注力し、顧客価値を提供
- 営業利益・経常利益・当期純利益は、
品質向上、QCD改善等の事業基盤強化
の継続と成長戦略の推進で、増益を計画
- 研究開発、設備投資等の将来への成長
投資増を計画

■ 2024年度に実施した施策

- ・自己株式公開買付（20億円）を実施
- ・株式分割（5分割）を実施

■ 会社の利益配分に関する基本方針

・2026年3月期、1株当たりの配当は10円を計画

当社は、株主の皆様に対する利益還元を経営の重要事項と認識しており、成長投資により持続的に会社を成長させ、企業価値向上に努めることを基本方針としております。配当につきましては、成長投資と業績等を総合的に勘案しながら継続して実施してまいります。

なお、2025年3月期の1株当たりの配当は6円としております。



中期経営計画

さらなる成長を目指し、アウトプットを最大化

- ① 人的資本経営を推進し、パフォーマンス向上
- ② 顧客価値を向上し、競争力強化
- ③ 守りと攻めの両輪の施策で、経営基盤を確立

① 人的資本経営

- ・人財開発
- ・組織活性化
- ・環境改善

② 顧客価値向上

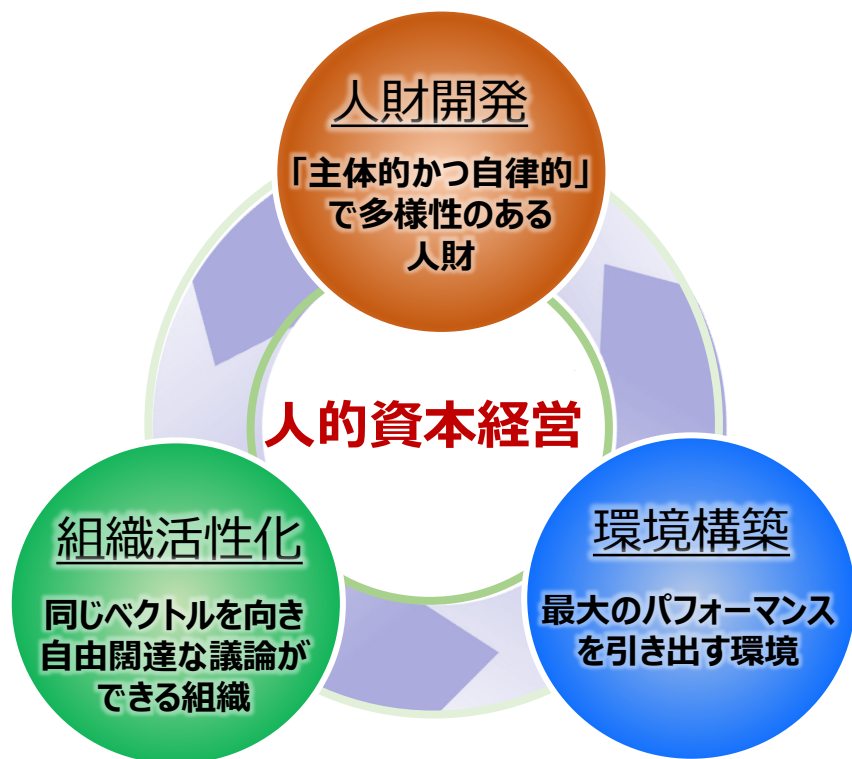
- ・顧客価値戦略推進
(企画力)
- ・生産購買戦略推進
(ものづくり力)
- ・技術戦略推進
(技術力)

③ 経営基盤確立

- ・品質管理/ コンプライ
アンス強化とガバナンス
体制整備
- ・成長に向けた施策遂行

強いアビオの主役は自分たち！

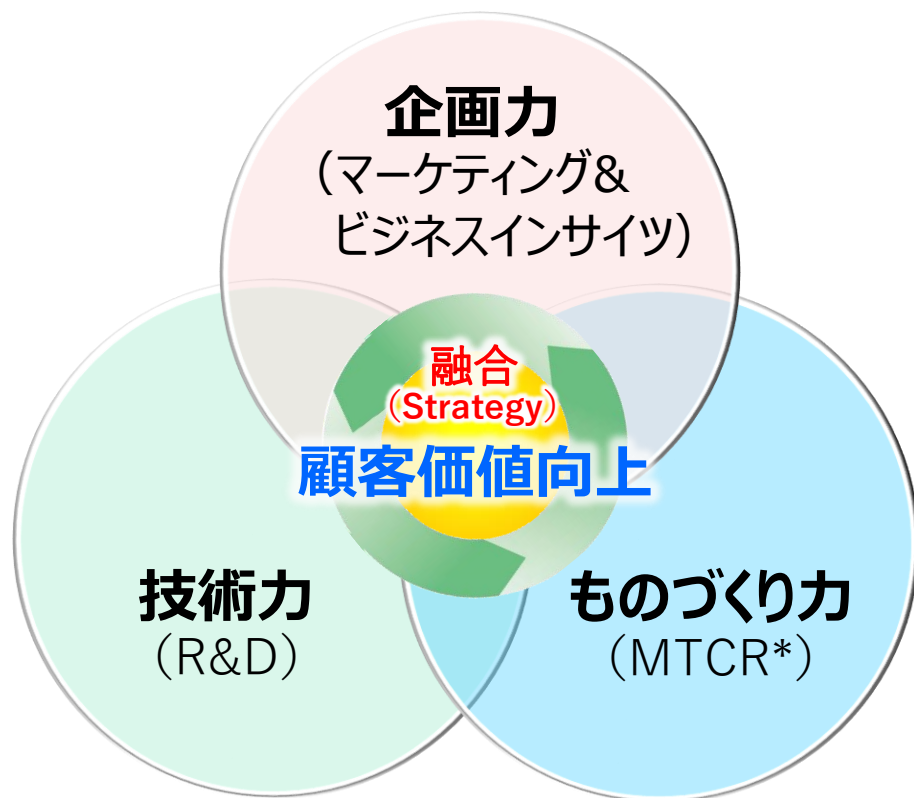
会社が成長するためには、人が最重要。
人的資本経営に注力し、パフォーマンスを向上することで、アウトプットを最大化し、
会社の持続的成長を実現



育成強化	★マネジメント力向上 ★不足スキル習得
採用強化	★必要人員増 ★即戦力/不足スキルの獲得
多様性の向上	★新しいアイデアの創出
健康経営の推進	★働く意欲の向上
ビジョン・戦略の共有	★方針や目標等の理解・共有によるベクトル統一
意識改革	★規律・道徳心の醸成
コミュニケーション強化	★円滑な意思疎通や、自由闊達な議論ができる組織文化の形成
働き方改革	★業務の効率化
物理的環境改善	★業務の効率化
DX推進	★業務の効率化

長期的な視点で顧客価値を捉え、お客さまの未来を形に！

技術革新等、世の中の変化に順応するため「企画力」「技術力」「ものづくり力」を強化し融合することで、継続的に顧客価値を向上し、**会社の持続的成長を実現**



■ 企画力（マーケティング&ビジネスインサイト）

市場が求めるソリューションや製品のタイムリーな市場投入に向けて情報収集を強化。お客様の声や市場動向の把握と分析からビジネスの洞察を深め、ありたい姿のイメージ化と共有を行い顧客価値向上の実現を推進

■ 技術力（R&D）

各事業と連携して、ありたい姿を共有し、戦略ロードマップを策定。
数年先を見た顧客価値を創造しテーマ設定して、先行開発や基本開発を推進

■ ものづくり力（MTCR）

設計改善や、設計共用化による設計・製造コスト削減、開発購買等のQCD改善を推進し、ありたい姿を実現（提供）して顧客価値を向上。

*MTCR = MONOTSUKURI TOTAL COST REDUCTION 現場からものづくりを改善し無駄を徹底的になくす活動

10年後も成長し続けるための経営基盤を確立！

守りと攻めの両輪の施策で経営基盤を確立し、
会社の持続的成長を実現

守り

品質管理/コンプライアンスの
強化とガバナンス体制整備

経営基盤確立

攻め

成長に向けた施策

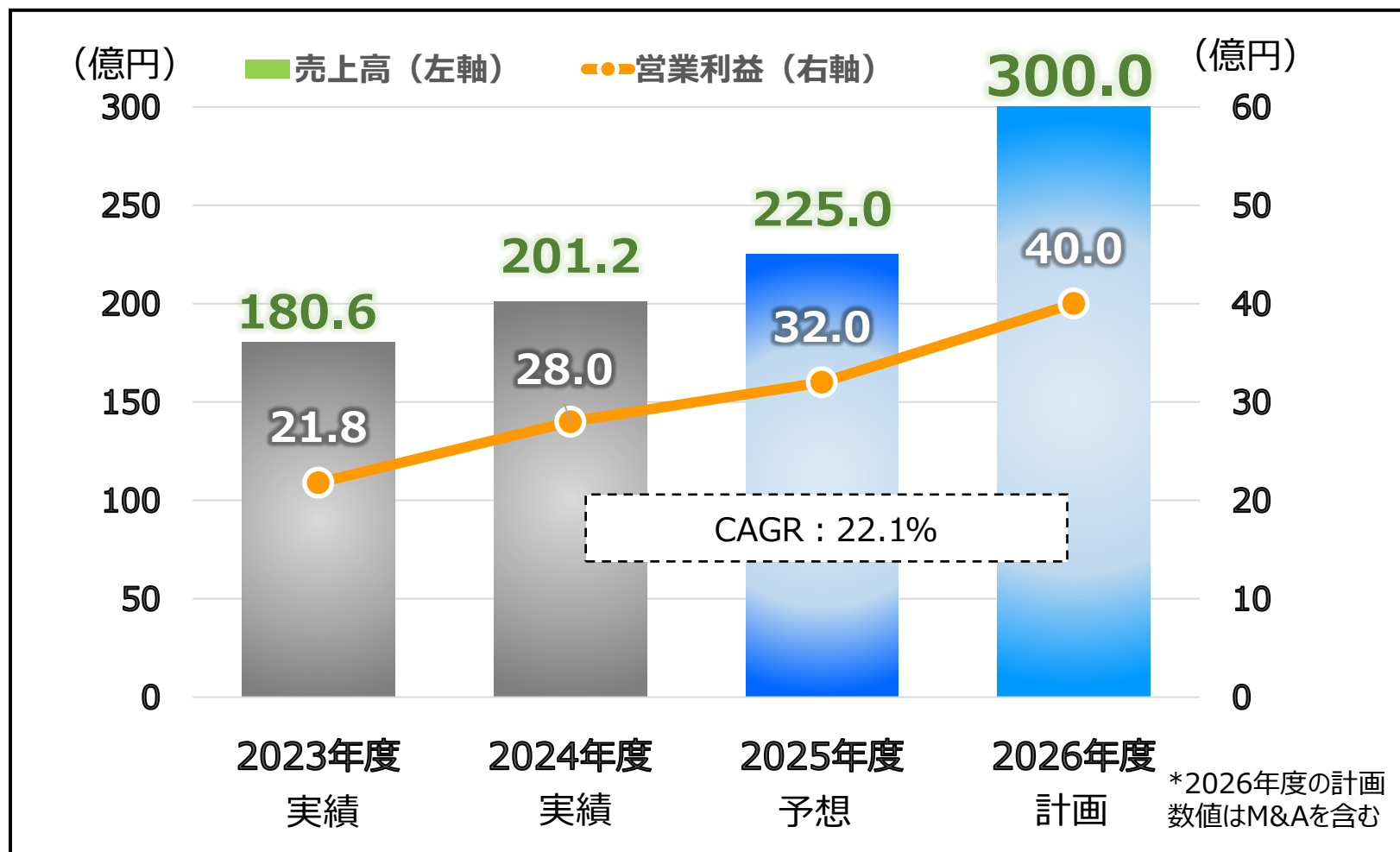
■ 品質管理/コンプライアンスの強化と ガバナンス体制整備

- ✓ 品質管理
・ソフトエンジニアリング強化によりフィールド不具合を未然防止
- ✓ ガバナンス体制
・リスクを適切に捉えコントロールして事業推進

■ 成長に向けた施策

- ✓ M&A
・対象範囲を情シ部門の売上拡大視点から
全社成長視点に拡大
- ✓ グランドデザイン
・情シの事業拡大によるフロアリソース確保と全社としての
ロケーション最適化
- ✓ 営業利益とキャッシュフロー改善
・事業成長に必要な資金の確保

2026年度は、売上高300億円、営業利益40億円を計画



市場環境

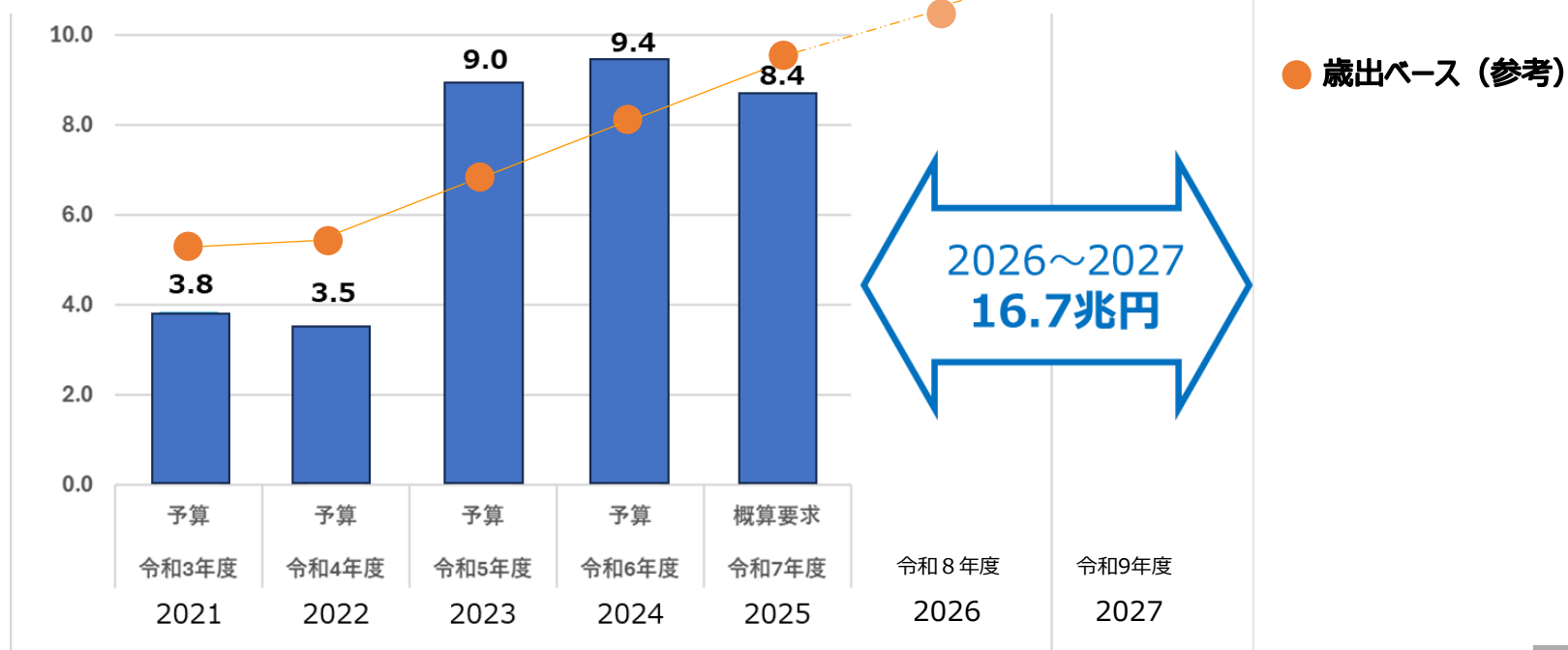
2023年度から防衛予算が大幅に拡大し、 将来の防衛装備品の開発・装備化に重点配分

政府方針：防衛力整備計画に基づき、整備計画期間内の防衛力抜本的強化実現に向け、3年目となる令和7年度においても、引き続き必要かつ十分な予算を確保し、スタンド・オフ防衛・統合防空ミサイル防衛・無人アセット防衛など、将来の防衛装備品の開発・装備化に重点配分

防衛予算 契約ベース

2023～2027 防衛力整備計画：43.5兆円

単位：兆円



出典：防衛力抜本的強化の進捗と予算 令和7年度予算の概要（防衛省）を元に当社試算を加筆

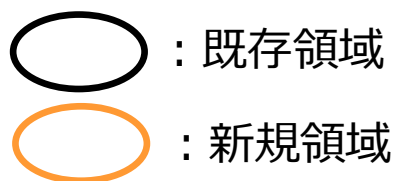
事業戦略

防衛力整備計画の主要7事業において、当社が強みを活かせるターゲット分野を定め、既存領域でより高付加価値な製品を提供することに加え、新規領域に展開して事業を拡大

■ 防衛省が掲げる防衛力強化の主要7事業と当社のターゲット分野/製品群

防衛主要事業	当社のターゲット分野	当社のターゲット製品群
1. スタンド・オフ防衛	能力向上型対艦誘導弾 高速滑空弾 極超音速誘導弾 (上記に対する射撃・誘導管制システム等)	飛翔体搭載電子機器 管制装置
2. 統合防空ミサイル防衛	JADGEシステム 各種レーダーシステム	飛翔体搭載電子機器 管制装置、信号処理装置、表示装置 試験環境
3. 無人アセット防衛	UAV（無人航空機）、USV（無人水上機）、UUV（無人水中機）、UGV（無人車両）、関連システム	群制御＋シミュレーション 防御システム
4. 領域横断作戦	宇サ電領域（衛星通信、電子戦、車両搭載型レーダー装置等） 陸海空領域（新型FFM、戦闘車等）	画像処理装置、通信装置、 情報統合装置、通信制御AP
5. 指揮統制・情報関連機能	情報収集・分析用器材	通信制御装置、信号処理装置
6. 機動展開能力	輸送機、ヘリ、船舶、車両	車体制御装置、表示器、電子機器
7. 持続性・強靱性	誘導弾、魚雷	検知器、計算器、ハイブリッドIC

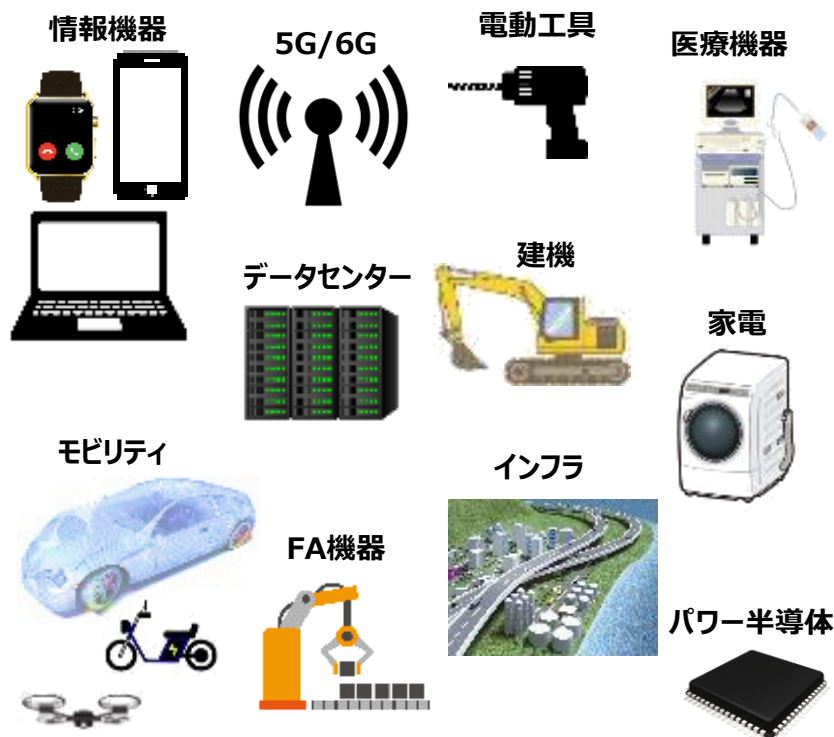
スタンド・オブ防衛



市場環境

機器のワイヤレス化・電動化・高機能化、通信の高速化・大容量化が加速
技術の進化や産業の変化に伴い、部品/材料/工法が変化

成長市場（ターゲット市場）



変化点（ニーズ）

- ・部品の小型化、高機能化
- ・通信の高速化、大容量化
- ・ワイヤレス化、電動化
- ・軽量化
- ・長寿命化

接合4工法

抵抗溶接



パルスヒート



超音波



レーザ



キラーアプリケーションを見極め
最適な接合ソリューションを提供し、
豊かな社会の実現に貢献

事業戦略

ターゲット市場の変化点からニーズを捉え、独自技術による優位性をもったソリューションで顧客価値を提供し、国内・海外に水平展開

ターゲット市場

水晶デバイス

2023→2029 CAGR12.1%



出典: QYリサーチ社

電池

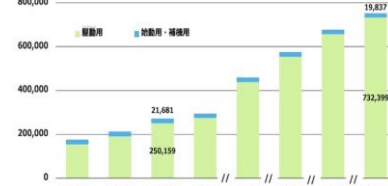
2023→2035 CAGR16.1%



出典: 矢野経済研究所

自動車向け二次電池

2024→2035 CAGR7.1%



出典: 富士経済

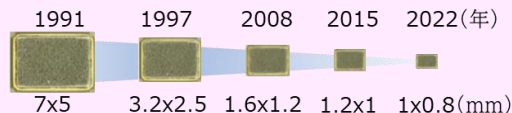
変化点

電子機器の高機能・多機能化による
部品搭載数増加

機器の進化/電動化、電動モビリティの普及、
持続可能なエネルギーへの移行

キーワード (ニーズ)

水晶デバイスの小型化



新製品

小型水晶デバイス封止用
全自動シーム溶接機

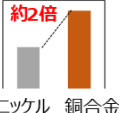


省スペース、省電力
トレーサビリティ強化
にも貢献

急速充放電



電気伝導度 IACS(%)



電気ロスの少ない素材（銅合金）
を安定して接合する抵抗溶接機



ニッケルタブ
→銅合金タブ



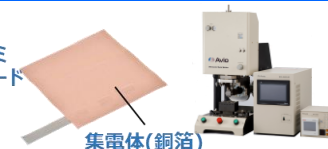
コストダウンにも貢献
ニッケル 2,473円/kg
銅 1,434円/kg
アルミ 439円/kg
※2025年5月調べ

航続距離延伸（軽量化）

	銅	アルミ
比重 (g/cm ³)	8.9	2.7

軽量素材（アルミ）と銅
を安定して接合する超音波溶接機

アルミ
タブリード

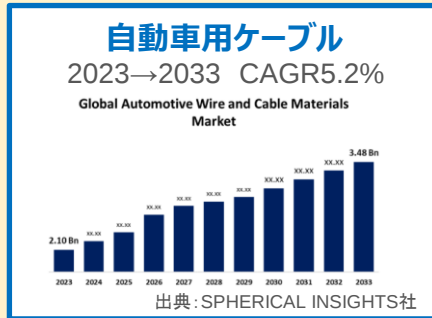


集電体(銅箔)

当社の
価値提供

事業戦略 ②接合機器事業 (3/3)

ターゲット
市場



変化点

電動モビリティの
電子機器搭載数の増加

キーワード
(ニーズ)

電力供給の大容量/大電流化
航続距離延伸 (軽量化)



太線接合



軽量素材
接合

新製品

新製品：最大120SQクラスの
太線を接合する超音波溶接機



軽量素材のアルミと銅の
安定した接合を実現し、
軽量化にも貢献

- ・10,000Wの高出力
- ・モニタリング機能付きで
トレーサビリティを強化

当社の
価値提供



電動モビリティの高機能化、
持続可能なエネルギーへの移行

熱マネジメント
放熱 (電気特性向上)



新製品

新製品：超音波リフロー装置

パワー半導体はんだ付け時に
ボイドを抑制した接合を実現

大気中かつ薬品未使用
で運用可能。コストと作業
者の健康にもやさしい

パルスヒート



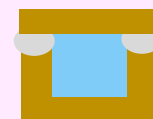
超音波



+

クラウドサービス、IoT化
ビッグデータの増加

熱マネジメント
水冷 (処理速度向上)



気泡による
水漏れ

水冷管の封止において
気泡を抑制した接合を実現

超音波振動で脱泡し、
パルスヒートで高精度な
はんだ付けを実現



市場環境

- ・トンネルや橋梁、建物のインフラ設備が老朽化
- ・発電所や電気配線、電池の劣化による火災が増加
- ・製品の品質や製造における安全の担保と効率化の要求が高まる
- ・高齢化が進み、健康寿命延伸への関心が高まる

ターゲット市場

インフラ設備（産業保安）



防災/セキュリティ



IoT（スマートファクトリー）



ヘルスケア



変化点（ニーズ）

- ・設備の老朽化
- ・生産効率化、省人化
- ・防災、セキュリティの向上
- ・少子高齢化
- ・健康寿命延伸



アプリケーションを見極め
最適なセンシングソリューションを提供し、
安全で安心な社会の実現に貢献

事業戦略

防災やセキュリティ強化に貢献する監視ソリューションを提供し、国内をメインに水平展開

◆防災監視ソリューション

温度上昇の予兆を検知

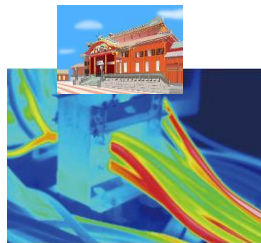
⇒ 早期検出による事故の未然防止

⇒ 早期対応による被害の拡大抑制

◆セキュリティ監視ソリューション

熱による侵入者/侵入物の検知

⇒ 禁止エリア等への侵入対策



電池

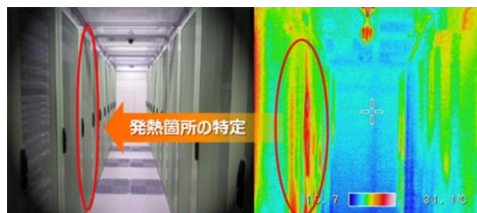
電池製造過程、電池搭載製品の運搬・保管を監視

配電盤

文化遺産、倉庫などの配電盤を監視

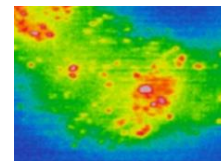
データサーバ

サーバ室を監視。
温度上昇箇所を検知し特定。
すぐに冷却することで、
システムダウンを未然に防止



【防災監視ソリューション導入例】

バイオマス発電所



ヤード/ピット

木質チップやペレットの異常発熱を検知し、発報

【セキュリティ監視ソリューション】

侵入監視

鉄道、空港、港湾、ダム、発電所、通信基地等の重要施設の監視により事故を回避
また、密漁船、不審船（密入国）等を発見

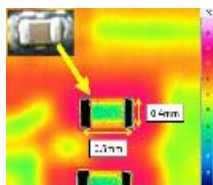


事業戦略

赤外線技術を応用したソリューションの提供

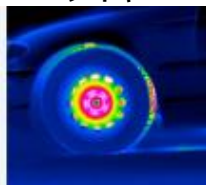
1. 電子部品の小型・高機能化や機器の安全性向上に貢献するソリューション

電子部品



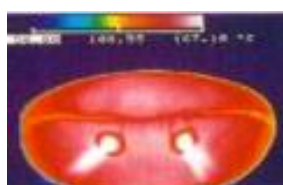
リーク電流など瞬時で微量、極小エリアの熱変化を可視化。電子部品の小型・高機能化に貢献

タイヤ



回転中の摩耗や扁平等を可視化。タイヤの長寿命化や安全性の向上に貢献

エアバック



エアバック起動瞬間のひずみの有無を可視化。人命に直結する安全性の向上に貢献

欠陥箇所の特定など故障解析の効率化にも貢献

新製品



H9300

- ・画素分解能 1.3 μ m
- ・温度分解能 $\pm 0.02^{\circ}\text{C}$
- ・サンプリング速度 max.1600Hz

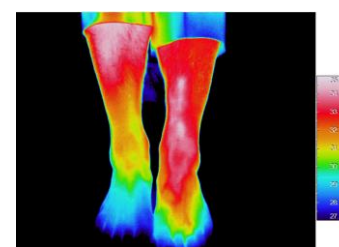
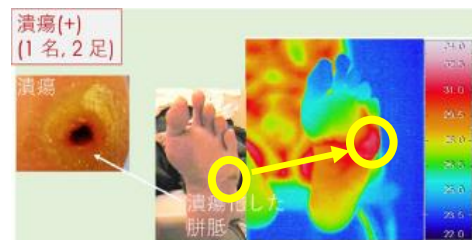
⇒ 熱設計や検証の高度化に対応

- ・10 μ mの極小（発熱、亀裂、損傷）
- ・ $\pm 0.1^{\circ}\text{C}$ 以内の微差/変化（微電流）
- ・0.01秒以内の変化（リーク、ショート）
- ・動体（回転体、流体、衝撃波等）

2. 症状や治療効果の可視化に役立つ国内唯一の医用サーモグラフィ

- 糖尿病による足潰瘍範囲検査（看護学領域）

- 炎症の範囲の確認



出典：科学研究費助成事業 研究成果報告書(令和2年5月)金沢大学 大江 真琴 教授
サーモグラフィを用いた糖尿病足潰瘍予防支援システムの開発

- ・ベッドサイド、往診に対応するポータブル型
- ・診断レポートを自動作成
- ・カルテに紐づくデータ管理
- ・医療点数取得の医療機器
- ・非接触、非侵襲



新製品

F50ME



日本アビオニクスは、私たちの強みを磨き、さらに高めて
お客様のために新しい価値を創造し、
安全・安心で豊かな社会を実現します



APPENDIX

■ 連結損益計算書

(億円)

	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度
売上高	168.1	202.0	192.3	177.5	180.6	201.2
売上原価	128.3	148.4	131.9	120.1	123.3	134.8
(原価率)	76.3%	73.5%	68.6%	67.6%	68.3%	67.0%
売上総利益	39.8	53.5	60.4	57.4	57.2	66.4
(G P率)	23.7%	26.5%	31.4%	32.4%	31.7%	33.0%
期間費用	39.0	39.9	41.9	37.9	35.5	38.4
(S G A比率)	23.2%	19.8%	21.8%	21.4%	19.6%	19.1%
営業利益	0.8	13.6	18.5	19.5	21.8	28.0
(営業利益率)	0.5%	6.8%	9.6%	11.0%	12.1%	13.9%
営業外損益	0.6	0.7	0.5	0.3	0.3	0.8
経常利益	0.3	12.9	18.1	19.3	21.5	27.1
(利益率)	0.2%	6.4%	9.4%	10.8%	11.9%	13.5%
特別利益	0.6	0.0	0.0	0.8	0.0	0.0
特別損失	0.2	3.5	0.2	0.1	0.0	0.0
税引前利益	0.6	9.4	17.8	20.0	21.5	27.1
法人税等	-0.1	-0.9	1.6	1.8	0.0	7.5
当期純利益	0.8	10.3	16.3	18.2	21.5	19.6
(利益率)	0.5%	5.1%	8.5%	10.3%	11.9%	9.8%

貸借対照表



■ 連結貸借対照表

(億円)

	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度
流動資産	173.2	179.8	158.4	174.0	199.8	193.4
固定資産	75.0	82.4	72.2	65.6	75.5	75.7
有形固定資産	46.4	47.3	46.9	44.0	47.5	47.2
無形固定資産	1.0	1.3	2.2	1.9	1.5	1.8
投資等	27.6	33.7	23.1	19.7	26.5	26.8
資産合計	248.2	262.2	230.6	239.6	275.3	269.1
流動負債	91.4	107.8	73.8	70.7	87.9	87.2
固定負債	65.4	51.4	49.1	47.3	44.3	42.3
負債	156.8	159.2	122.9	117.9	132.2	129.5
資本金	59.0	59.0	59.0	59.0	59.0	59.0
資本剰余金	0.0	0.0	0.0	0.0	0.1	0.1
利益剰余金	4.3	14.0	20.5	38.7	59.2	77.8
その他	28.2	30.0	28.2	24.0	24.8	2.7
純資産	91.4	103.0	107.7	121.7	143.1	139.6
負債・純資産合計	248.2	262.2	230.6	239.6	275.3	269.1

現預金	23.5	22.9	30.5	21.1	23.4	19.3
借入金残高（長期+短期）	57.6	52.0	38.7	36.5	47.9	47.9

日本アビオ 単独剰余金 0.7 10.3 16.9 35.7 53.9 71.0

■ 連結キャッシュ・フロー計算書

(億円)

	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度
営業活動キャッシュ・フロー	-11.2	8.6	33.5	-8.6	-2.1	21.5
投資活動キャッシュ・フロー	-1.6	-3.0	-2.6	1.5	-5.2	-4.7
財務活動キャッシュ・フロー	4.2	-6.2	-23.3	-2.3	9.6	-20.9
現金及び現金同等物の増減（△は減）	-8.7	-0.6	7.6	-9.4	2.3	-4.1
現金及び現金同等物の期首残高	32.2	23.5	22.9	30.5	21.1	23.4
現金及び現金同等物の期末残高	23.5	22.9	30.5	21.1	23.4	19.3

■ 指標

	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度
総資産	248.2	262.2	230.6	239.6	275.3	269.1
純資産	91.4	103.0	107.7	121.7	143.1	139.6
自己資本比率	36.8%	39.3%	46.7%	50.8%	52.0%	51.9%
有利子負債残高	57.6	52.0	38.7	36.5	47.9	47.9
D／Eレシオ	0.63	0.51	0.36	0.30	0.33	0.34
ネットD／Eレシオ	0.37	0.28	0.08	0.13	0.17	0.20
ROE	0.8	10.6	15.4	15.9	16.2	13.9
EBITDA	3.4	16.5	21.0	21.7	24.7	32.7

将来予想に関する注意 及び お問い合わせ先



本資料に記載されている業績、財政状態その他経営全般に関する予想、見通し、目標、計画等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいております。これらの判断及び前提は、その性質上、主観的かつ不確実です。また、かかる将来に関する記述はその通りに実現するという保証はなく、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

将来予想に関する記述は、あくまでも本資料の日付における予想です。新たなリスクや不確定要因は随時生じ得るものであり、その発生や影響を予測することは不可能であります。また、新たな情報、将来の事象その他にかかわらず、当社がこれら将来予想に関する記述を更新し、公表する義務を負うものではありません。



〒224-0053 横浜市都筑区池辺町4475番地

日本アビオニクス株式会社 経営企画本部

TEL:045-287-0300



Avio